

「NPOパートナーシップ制度」2023 年度の取組み

2023 年度は、行動規制の緩和が進む中、「ニューノーマル社会でのNPOへの支援活動～人が人を支えるつながりづくり～」を主なテーマとし、NPOの活動を進める人、支援する人、困っている人との「つながり」を育み広げながら、SDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」社会づくりに向けて取組みを進めました。また、「居場所づくりへの支援活動」や「防災・減災の取組み」も、継続して行いました。

2023 年度の取組みは以下の通りです。(のべ 632 名参加)

支援センター	開催日	取組み	内容	参加人数
しが NPO センター	6/30	南海トラフ地震にどのように備えるか？	南海トラフ地震のことに加え、地震に備えて何をすればよいのかを考える。	42
	9/1	災害におけるつながりが生み出すイノベーション	NPOをはじめとする市民セクターをサードセクターとして捉え直し、活躍のメカニズムについて考える。	22
	10/30	災害支援における学生の役割	これまでの学生の活動を紹介し、災害時にどのような関係をつくればよいか考える。	14
	12/15	災害支援で活かす地域の連携と協働	外部支援に頼らない地域連携、多様な機関・団体による協働の重要性を考える。	28
奈良 ストップ 温暖化の会	11/15	どうする？気候変動～人の和、知恵の輪、地球の環～	異常気象に不安を感じる人が増える今、知恵を持ち寄り、地域の特徴を活かした取組みを広げる。	80
きょうと NPO センター	9/30	福知山で考える「水害への備え」 -平成 25 年台風 18 号災害を振り返って-	当時の状況を継承するとともに水害に対する備え、発災時における対策の知識の普及と啓発をめざす。	62
	12/10	DV 被害からのレジリエンス～被害からの回復、そして社会復帰への多様なゴールズに向けて～	DV 被害からのレジリエンスに注目し、最初のゴール「暴力からの離脱」から社会復帰に向けた「多様なゴールズ」について検証する。	61
大阪ボランティア協会	7/26	災害発生前後の動きをネットワークで見る机上訓練	大阪府域での水害による被災を想定し、災害発生から時系列で、各団体の被災者支援の内容について共有する。	45
	2/1	能登地震についての情報共有と今後の支援について	能登半島地震における現地支援団体や後方支援団体との情報共有を行い、今後の支援について考える。	62
わかやま NPO センター	1/27	ニューノーマル社会のセーフティネットを考える	「エッセンシャルワーカー」関係者から、コロナ禍の活動を振り返り、今後のセーフティネットのあり方考える。	18
シンフォニー	9/16	ソーシャルネットワーク作り事業「今求められている連携・協働と	“変化する時代にソーシャルネットワークで対応するために、地域全体	28

		は？」	で学びの共同体、実践の連携・協働を促進する。	
	11/11	国際連帯を推進する多国籍会議	地域で多文化共生に取り組む団体を支援し、国籍に関係ない直接の国際連帯を促進する。	21
C S 神戸	8/27	第 8 回居場所サミット in 神戸 「さあ明けた！アフターコロナの地域と居場所～コアメンバーや利用者を増やす工夫～」	居場所の根幹である「人」（コアメンバー、利用者）に焦点を当て、多くの人が参加する好事例の居場所からヒントを得る。	101
全体 セミナー	2/10	阪神地域住民と NPO が協働したまちづくりについて	阪神淡路大震災から 29 年を迎え、いま一度、阪神間で生まれた NPO 協働による地域づくりについて課題を整理し、次世代に向けた“新しいカタチ”について考える。	48



どうする？気候変動～人の和、
知恵の輪、地球の環～
(奈良ストップ温暖化の会)



第 8 回居場所サミット in 神戸
(CS神戸)



阪神地域住民と NPO が協働した
まちづくりについて
(全体セミナー)

以 上